

「かっぱどっくり」



むかしむかし、茅ヶ崎の西久保というところに、三堀五良兵衛というお百姓が住んでいた。ある日、馬のアオと共に野良仕事をしていると……「ヒヒーン！」と、アオがいなくなった。振り向くと、カッパがアオのお尻にかみついている。「こらあ！カッパあ！」。

騒ぎを聞いた村人たちは、カッパを捕まえこらしめた。カッパは、「ごめんなさい、ごめんなさい」と謝るが、村人たちは砂をかけたか、つついたりしている。その夜、心配になった五良兵衛がカッパの所に行ってみると、カッパが白状した。「ずっと魚が捕れなくて間門川から上がってきた。するとそこに肥えた馬がいて、思わずお尻にかみついてしまった。子たちが腹をすかせて待っているんだ。かわいそうに思った五良兵衛は、カッパを放した。「ありがとうございます」。カッパは何度もお礼を言って帰っていった。

次の日の夜更け、家の戸をたたく者がいる。五良兵衛が出てみると、昨日のカッパだった。「お礼に、先祖から伝わる『とっくり』を持ってきました。このとっくりの酒は、いくら飲んでもなくなりません。でも、底を三回たたくと、出なくなりますから気を付けて」。そう言って帰って行った。翌朝、五良兵衛はとっくりの酒を飲んでみた。「…ああ、これはうまい！」。一杯のつもりが、二杯、三杯……。ついにいびきをかいて寝てしまった。

「ああ、よく寝た。どおれ、とっくりはどうなっているかな。おお！これはすごいぞ。お酒が、またたくさん入っている！」。来る日も来る日も、五良兵衛は酒を飲んで寝てを繰り返して、やがて野良仕事もしなくなった。「どうした？働かなくていいのか？」心配した村人たちが代わる代わるやって来るが、酒におぼれた五良兵衛は仕事をせず、田んぼは荒れ果て、やがてアオの世話もしなくなった。

ある日、馬屋から「どっしーん」という大きな音が。五良兵衛が覗いてみると、そこにアオが倒れていた。「あれ！お前は本当にアオなのか？こんなにやせちゃまって。これではアオが死んでしまう。酒なんか飲んでいてはダメだ」。五良兵衛は、とっくりの底を三回たたいた。「とんとんとん」。すると、酒は出てこなくなった。五良兵衛は酒をやめ、一生懸命働いた。そしてアオと一緒に、いつまでも幸せに暮らした。

参考：「かっぱどっくり」ガイドブック ※主人公名は五良兵衛で統一。

この町には、まだまだ知らない魅力がある――



取材を終えて

町内には、今回紹介したてんぐ邑（藤川）のほかにも富沢ホタルの里（富沢）、神光寺沢川（千頭）、ときどんの池（徳山）、正島（徳山）など、いくつもホタルの鑑賞スポットがある。その一つ一つに「ホタルの光を取り戻したい」という思いがあり、繰り広げたドラマがある。ぜひ来年は、そんな思いを込めた人たちとの会話も楽しみながら、ほのかな光に魅了されてほしい。先月号のまちの話題でも紹介した「川根どころゆず」。販促キャンペーン後、水口組合長は「私たちも自宅で味わっているんです。まずは自分たちが味をちゃんと把握しないと、お客さんに正確な説明ができないで

すから」と話した。売れ行きは好調。小瓶はまもなく在庫がなくなりそうだと言う。山田玉枝さん宅に長く大切に保管されている「かっぱどっくり」。玉枝さんは、それを木箱から取り出すとき、これでもかというほど慎重に、丁寧に扱っていた。先祖からの「歴史」を受け継ぐ自覚と誇りが感じられるようなしくさだった。何でもそうだが、人の思いが込められた物には魅力がある。そんな魅力が、この町にはたくさんあふれている。そう肌で感じた今回の取材だった。これから始まる夏休みシーズン。家族みんなで本町探検隊になって、町内あちこち「魅力探し」を試みるのも楽しいかもしれない。

終

物語の子孫が語るかっぱどっくりの過去、今、そしてこれから

代々受け継がれた精神

この「かっぱどっくり」は唐津焼とも備前風焼き物ともいわれています。ちゃんと鑑定してもらったら、どんな由来なのか、どれくらい価値があるのか、はつきり分かってほしい。そんな思いで、先代はいろいろな人から「とっくりを譲ってほしい」と頼まれていたようです。木材会社の社長さんから「100円で売ってくれ」と頼まれたこともあったみたいです（明治30年頃の1円は今の1万2千円程度といわれており、単純に当時の100円は今の120万円という計算が成り立つだろう）。でも先代は「代々受け継がれてきた大切な物ですから」と譲らなかつたそうです。とても大事にされてきたとっくりなんです。

茅ヶ崎市のかっぱどっくりグループの皆さんとは今回初めてお会いしましたが、皆さんすごく感激してくれました。かっぱどっくりの実物を見て「本物だ！」と、すぐにカメラや携帯を出して写真を撮っていました。こんなに感激してもらえるなんて……こちらもうれしかつたですよ。私自身を見て「三堀五良兵衛の血を受け継いでいるんですね……」とおっしゃる人もいました。

ある人は「智満寺はすごく雰囲気が良いし、この町の自然環境も素晴らしい。今度は家族を連れて来たいと思っています」と言ってくくださる人もいました。

茅ヶ崎市のかっぱどっくりグループの皆さんとは今回初めてお会いしましたが、皆さんすごく感激してくれました。かっぱどっくりの実物を見て「本物だ！」と、すぐにカメラや携帯を出して写真を撮っていました。こんなに感激してもらえるなんて……こちらもうれしかつたですよ。私自身を見て「三堀五良兵衛の血を受け継いでいるんですね……」とおっしゃる人もいました。

ある人は「智満寺はすごく雰囲気が良いし、この町の自然環境も素晴らしい。今度は家族を連れて来たいと思っています」と言ってくくださる人もいました。

茅ヶ崎市のかっぱどっくりグループの皆さんとは今回初めてお会いしましたが、皆さんすごく感激してくれました。かっぱどっくりの実物を見て「本物だ！」と、すぐにカメラや携帯を出して写真を撮っていました。こんなに感激してもらえるなんて……こちらもうれしかつたですよ。私自身を見て「三堀五良兵衛の血を受け継いでいるんですね……」とおっしゃる人もいました。

お金では買えない価値

茅ヶ崎の民話の題材となつたとっくりが、ここにあるのは何とも不思議な気がします。でも実際に「世界に一つしかないもの」なんです。お金では買えない価値というのは、きつとこういうことです。子どもたちはお年忌の際に、

このとっくりと一緒に写真を撮ります。ちよつとした習わしみたいなもの。子や孫の世代に、このとっくりの歴史を伝えていかないとならない。それが私たちの役割だと思っています。

子も孫も、小さいうちは何のことだか分からないかもしれません。とっくりが持つ歴史も、その重みも。私も小さい頃はそうでしたから仕方ないことです。でも成長していくにつれ、その価値が分かってくると思っています。

友好・交流の輪を育てたい

茅ヶ崎市では、このかっぱどっくりをモチーフとした「まちづくり」が盛んに展開されていると聞きました。中には紙芝居として、子どもに伝える活動もしているようです。こちらでも町内の語り部グループの人が、このかっぱどっくりを題材に語りをするのも面白いと言ってくれました。そうやって、互いの活動にかっぱどっくりが活用され、それをきっかけにして、さらに交流の輪が広がっていく可能性もあると思います。

とっくりが今ここにある不思議 人との「縁」を大切に思う

三堀五良兵衛の子孫
山田玉枝さん（上長尾）

わざわざ茅ヶ崎市から、この町を訪れてくれる人がいる。今後も交流をしていきたいと言ってくれる。私たちが茅ヶ崎市に招いてくれる。本当にありがたいことですね。「出会いって大切だね……」。グループの人たちが帰った日の夜、つくづくそう思ったんです。本当に不思議な縁だな。このとっくりがなければ、茅ヶ崎市の人たちと出会うことすらなかつたんです。人間関係が希薄になつたといわれる現代ですが、こういった「偶然が生んだ人の縁」を、これからも大切にしていきたいと思っています。

